岩田榮吉《レンブラント風自画像》1950-51年 油彩／キャンバス 東京藝術大学蔵

没後 40 年

岩田榮吉と恩師・畏友

小磯良平・伊藤廉・長谷川潔をはじめとして

2022.10.15sat. ～ 2023.1.15sun.

【時間】10:00～17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】火曜 / 年末年始（12 月 26 日～ 1 月 3 日）

【観覧料】一般 500 円 / 割引 400 円

※割引は 65 歳以上、障がい者手帳・三溪園入園券をお持ちの方が対象

※保護者同伴の中学生以下 1 名無料

※その他団体割引（要事前予約）、「濱ともカード」のご提示で優遇有り

横浜本牧絵画館

Yokohama Honmoku Gallery

〒231-0822 神奈川県横浜市中区本牧元町 40-7

TEL:045-629-1150　FAX:045-629-1151

公式 HP:https://www.yh-g.org/

関連 HP:https://www.iwata-museum.org/

パリで制作し続けた理由は

「没後40年 岩田榮吉と恩師・畏友」 展示にあたって

岩田榮吉（1929～1982）の没後40年にあたり、その師その友に焦点をあて、画業を振り返ります。よき師よき友とは、偶然に出会うものではなく、自分自身が確かな考えを持ち、前向きな気持ちをもって生きて、はじめて得られるものかもしれません。画家にとって、画面とひとり向き合う苦しみは、技量経験を積んだところで尽きるものではありませんが、「ひたすらに絵を描いていたい」という純粋な気持ちを生涯持ち続けた岩田には、様々な局面場面で恩師・畏友と呼べる人々との出会いがありました。28歳での渡仏後、パリで制作し続けた理由に、現地での師友の存在が大きかったことは疑いもありません。

岩田榮吉《謝肉祭》1977年
油彩／キャンバス　東京藝術大学蔵

横浜本牧絵画館

Yokohama Honmoku Gallery

当館は、横浜の名勝「三渓園」に近く、絵を見ることが好きな方、絵を描くことが好きな方のための、具象絵画を中心とする私設美術館です。

岩田榮吉（1929-1982）

当館は「岩田榮吉」の作品を中心にコレクションしております。岩田榮吉は、東京藝術大学油絵科を首席で卒業し、その後生涯パリで制作を続けた画家です。フェルメールなどに代表されるオランダ 17 世紀絵画の影響を受ける一方、トロンプルイユ（だまし絵）を始めとして、伝統的な技法を用いた写実的な細密画を多く描きました。

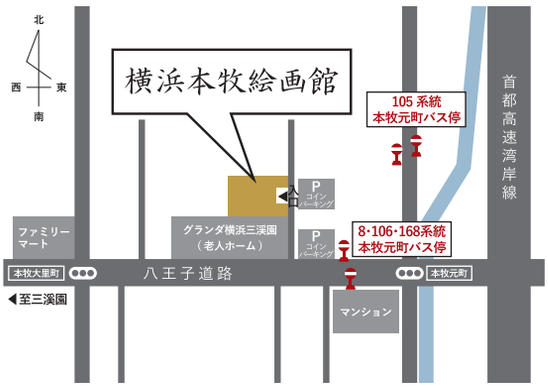
公共交通機関からのアクセス

元町・中華街駅より
（東急東横線・みなとみらい線）
ホーム横浜寄りを上り、4番出口右方「山下町」バス停より
横浜市営バス2番乗場から8・168系統
「本牧車庫前」行「本牧元町」下車　所要約30分・徒歩1分

横浜駅より
（JR各線、東急東横線、京浜急行、相鉄線、横浜市営地下鉄）
東口バスターミナル横浜市営バス2番乗場から8・168系統
又は3番乗場から105系統
「本牧車庫前」行「本牧元町」下車　所要約40分・徒歩1分

桜木町駅より
（JR京浜東北線、横浜市営地下鉄）
横浜市営バス2番乗場から8系統
又は11番乗場から105・106系統
「本牧車庫前」行「本牧元町」下車　所要約30分・徒歩1分

根岸方面より
横浜市営バス58・101系統「和田山口」で下車、
道の反対側の横浜市営バス4番乗場8・105・106・168系統
「本牧車庫前」行「本牧元町」下車
「和田山口」から所要約10分・徒歩1分



※専用の駐車スペースはありません。（近隣のコインパーキングをご利用ください）
※車いす用の来車スペースが１台分あります。ご利用は事前にご連絡ください。

横浜本牧絵画館2022年下期展示目録

没後40年　岩田榮吉と恩師・畏友

小磯良平・伊藤廉・長谷川潔をはじめとして

会期：2022.10.15（土）-2023.1.15（日）

★は画像・説明文あり

1．初めての師・中村新次郎

No.		制作者	タイトル	制作年	サイズ(cm)	材質・技法	所蔵
1		中村新次郎	婦人像	1960	89.0×71.0	油彩／キャンバス	横浜本牧絵画館
2	★	岩田榮吉	自画像	1946	30.0×17.0	鉛筆／紙	横浜本牧絵画館
			【解説】岩田榮吉は慶應義塾大学普通部・予科（現在の中学校にあたる）在学中に、後に示現会創立メンバーとなった中村新次郎から石膏デッサン、人物画や風景画を教わりました。本作は岩田が17歳の作品ですが、すでに構図の取り方や明暗の表現などに習熟し、意志的な強いまなざしが印象的な自画像になっています。				
3	★	岩田榮吉	自画像（中村先生アトリエにて）	1949	45.5×37.9	油彩／キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】構図の取り方、絵の具のタッチ等に中村からの影響が見られますが、全体にレンブラントを彷彿とさせる明暗と茶褐色を基調とした表現となっています。レンブラント作品は戦前から美術全集・雑誌などで紹介されていたとはいえ、得た知識を自らの作画において実際に試してみようとする意欲があふれています。				

2

3

2．慶大時代の師・寺田春弌

No.		制作者	タイトル	制作年	サイズ(cm)	材質・技法	所蔵
4		寺田春弌	庭の秋	1966	60.8×80.2	油彩／キャンバス	東京藝術大学
5	★	岩田榮吉	レンブラント風自画像	1950-51	53.0×45.5	油彩／キャンバス	東京藝術大学
			【解説】本作はNo.3をさらに進めて、レンブラントの作品に見られるような明暗法、構図を強く意識した作品となっています。そして何より、画中の自身のコスチュームがレンブラントへの傾倒ぶりを表しています。本作は岩田が慶大工学部を卒業し藝大に入学する直前の制作ですが、幼少期から絵を描きたいという素直な感情がここでまずは結実したかのようです。				
6		岩田榮吉	キャラフと玉葱	1951	45.5×37.9	油彩／キャンバス	横浜本牧絵画館

5

3．芸大時代の師・小磯良平

No.		制作者	タイトル	制作年	サイズ(cm)	材質・技法	所蔵
7		小磯良平	三つの人形	1968-69頃	36.0×28.5	エッチング	横浜本牧絵画館
8		小磯良平	フランス人形	1978頃	30.4×22.4	エッチング	横浜本牧絵画館
9	★	岩田榮吉	自画像	不詳	36.0×25.5	鉛筆/紙	横浜本牧絵画館
			【解説】本作の制作年代は不明ですが、藝大時代の学習制作品であると思われます。難易度の高い斜め下方の視点から顔の輪郭を正確に捉えていること、陰影法への高度な工夫が見られること、またタッチもより自然で洗練されていることなど、本作からは様々な課題への真摯な取り組みを見てとることができます。				
10		岩田榮吉	デッサン(女性頭像)	不詳	42.0×29.5	鉛筆/紙	横浜本牧絵画館

9

12

4．芸大時代の師・伊藤廉

No.		制作者	タイトル	制作年	サイズ(cm)	材質・技法	所蔵
11		伊藤廉	窓に倚る女	1929	92.3×73.4	油彩/キャンバス	東京藝術大学
12	★	岩田榮吉	運河	1954	60.6×72.7	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】岩田が東京藝術大学在学中に描いた風景画です。入学前までの画風から一変し、様々な模索を重ねる中にあって、本作では岩田の心象風景が濃密でありながら淡い点描風の色彩によって表現されています。戦後間もなくの時代に芸術の道を模索しながら苦悩していた作家自身の心情が作中より感じ取れます。				
13	★	岩田榮吉	回想	不詳	79.0×98.5	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】本作はNo.15の作品に続く構想段階の一案であったと考えられます。ここでは岩田の内面にある回想の世界が作中で表現され、おそらくはそれぞれの人物像が岩田自身の姿と重ね合わされています。奥行きのある絵画空間の中に人物が巧みに配置され、西洋の伝統的なの歴史画を彷彿とさせるような重厚感のある世界を予感させます。				
14		岩田榮吉	三色すみれ	1951-55	33.4×24.2	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
15	★	岩田榮吉	招待	1951-57	116.7×90.9	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】本作は、岩田の東京藝大専攻科（大学院）の伊藤廉教室における課題制作作品です。その制作過程が雑誌「アトリエ」1957年6月号に収録されています。その課題は「実際の空間というものと、画面の空間との関係を考察すること」。ここでは実際に二人のモデルが起用され、岩田ほか5名が作品の制作にあたりました。				

13

15

5．終生の師・長谷川潔

No.		制作者	タイトル	制作年	サイズ(cm)	材質・技法	所蔵
16		北岡文雄	長谷川潔の肖像	1983	16.0×12.0	木口木版	横浜本牧絵画館
17		長谷川潔	小鳥と二つの枯葉	1964	26.5×35.6	メゾチント	個人蔵
18	★	岩田榮吉	ブルターニュの農家	1965-69	18.2×26.2	ドライポイント	横浜本牧絵画館
			【解説】長谷川潔は古い銅版画技法であるメゾチント（マニエール・ノワール）に着目し、自らの絵画世界の表現に活かし、地歩を築きました。その理念・技法を継承したい思いがないはずはありません。期待を感じ、手ほどきも受けながら、岩田は結局版画の道には進みませんでした。中途半端な取り組みはかえって失礼なことと考えたのでしょうか。				
19	★	岩田榮吉	人形と鳥	1970	60.0×73.0	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】本作で岩田は人形と配置されたオブジェに自分自身と世界のイメージを重ねています。また、それらを見守る鳥は長谷川先生の表象です。代表作の《アルルカン（トロンプルイユ）》をはじめいくつかの作品に登場する人形は長谷川から譲り受けたもので、本作ではまさに長谷川先生（鳥）と自身（人形）の関係がメインテーマとなっています。				
20		長谷川潔	彫像のある静物	1951	28.5×21.3	エングレーヴィング	横浜本牧絵画館
21	★	岩田榮吉	薔薇の貴婦人	1967	92.0×73.0	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】No.20のモチーフと同一の石膏像は長谷川潔から借り受け、ナポレオン1世の妃でバラの収集家としても有名なジョゼフィーヌに見立てています。煩雑さを排して絞り込んだオブジェに、伝統的ときに独創的な意味を持たせ、考え抜いた構図と綿密な描写によってテーマを浮かび上がらせる手法は、まさに長谷川譲りです。				

18

19

21

6．心強いパリの画友たち

No.		制作者	タイトル	制作年	サイズ(cm)	材質・技法	所蔵
22		H・カディウ	ぶどうと麦	不詳	46.0×38.0	リトグラフ	横浜本牧絵画館
23		O・P・ボーピュイ	フェルメール家の岩田氏	1984	47.0×33.5	油彩/板	横浜本牧絵画館
24	★	岩田榮吉	謝肉祭	1977	65.0×54.0	油彩/キャンバス	東京藝術大学
			【解説】復活祭はクリスマスと並んでキリスト教の重要な祭日ですが、一連の催事に先立って行われる「謝肉祭」は、いわば前倒しの「精進落し」、キリスト教世界でも最も人間臭く、それぞれの地域色も豊かな「お祭り」のひとつです。本作は、岩田が渡仏後20年を経て師友にも恵まれた時期の制作、画題の奥行と作画の安定が相俟って円熟味漂う仕上がりです。				
25	★	岩田榮吉	謝肉祭（下絵）	1975-76	55.0×46.0	油彩/キャンバス	横浜本牧絵画館
			【解説】本作はNo.24の下絵ですが、緻密なタッチで描かれており完成度が高い作品となっています。格子状の補助線や消失点からの透視線が後に追加されており、細部の描き込みがなされていないなどを除けばその後ほとんど大きな修正はなく制作が進行した様子がわかるものとなっています。				
26	★	岩田榮吉	箱 （トロンプルイユ）(複製)	1977	46.0×55.0	原画：油彩/キャンバス	原画：個人蔵
			【解説】本作品は小品ながら複数のオブジェが一定の奥行きを持つ空間の中に巧みに配置され、また高度な遠近法や明暗法によって作品が周囲の展示空間と同化するよう演出がなされています。しかしそれと同時に岩田は絵画空間の中において一つの完結した世界も作っています。本作はまさに岩田のトロンプルイユ観を凝縮した作品と言えるでしょう。				

24

25

26

参考資料

No.	タイトル
1	屋外での写生（写真：撮影年不詳）
2	寺田春弌『”シモネッタ・ヴェスプッチの肖像”についての調査研究報告』(昭和46)
3	伊藤廉　『繪の話』（昭和22）
4	伊藤廉　『セザンヌ覚書』（昭和24）

©Yokohama Honmoku Gallery 2022